

業績サマリ（四半期）

Tera Probe

EV向けロジック製品の受託量増加
サーバー向け及びAI関連製品も堅調に推移

(単位: 億円)

	FY2024				FY2025		QoQ	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	%
売上高	89.5	99.3	92.3	90.0	92.5	97.7	5.2	6%
売上総利益	23.4	28.2	23.5	20.9	24.0	26.7	2.7	11%
売上総利益率	26.1%	28.4%	25.4%	23.3%	26.0%	27.4%	1.4pt	—
営業利益	17.0	21.0	16.8	14.6	17.5	19.7	2.2	12%
営業利益率	19.0%	21.2%	18.2%	16.3%	19.0%	20.1%	1.1pt	—
経常利益	17.1	21.8	14.9	16.2	16.8	17.8	1.0	6%
税金等調整前当期純利益	20.0	24.1	17.4	17.5	17.4	18.8	1.4	8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9.2	9.0	7.6	9.4	7.1	5.8	-1.3	-19%
純利益率	10.3%	9.0%	8.2%	10.4%	7.7%	5.9%	-1.8pt	—
為替レート (US\$)	146.67	153.20	154.17	149.14	154.13	146.14		
為替レート (NT\$)	4.73	4.78	4.73	4.72	4.64	4.67		

株式会社テラプローブ 代表執行役社長の横山です。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。それでは、2025年12月期第2四半期の決算についてご説明いたします。

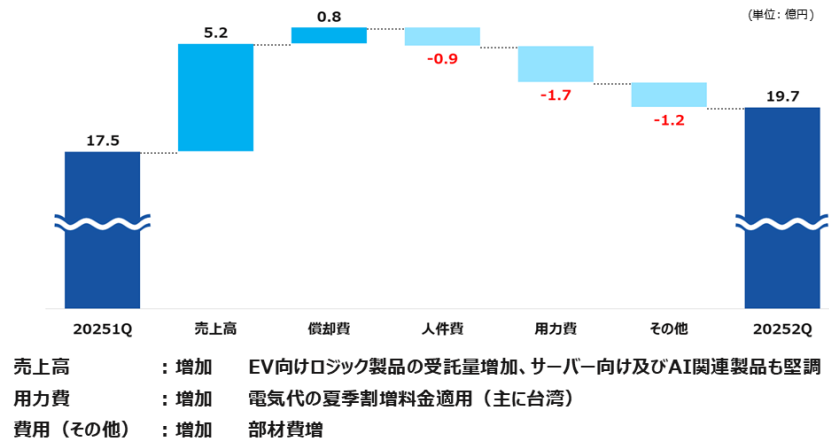
まず、第2四半期の業績です。売上高は、前四半期比で6%増加し、97.7億円でした。これは、サーバー向けおよびAI関連製品が堅調に推移した結果です。売上構成比では、サーバー向けが2024年度末の14%から約6ポイント上昇し、第2四半期には20%となりました。また、AI向けが3%から4%へと拡大しました。

営業利益は19.7億円で、4四半期ぶりに営業利益率が20%台に回復しました。

営業利益増減要因（四半期）

Tera Probe

夏季割増料金による用力費増も、売上高伸長により営業利益は2.2億円増加



第2四半期の営業利益の増減要因です。電気代の夏季割増料金適用による用力費の増加や、人件費の増加などがありましたが、売上高が5.2億円増えたことで、これらの費用増を吸収し、第2四半期の営業利益は19.7億円となっています。

業績サマリ（2Q業績予想値と実績値の差）

Tera Probe

為替換算レート（NT\$）が前提以上の円安となり、売上高、利益ともに予想比増

（単位：億円）

	FY2025		差	
	2Q予想	2Q実績	増減額	%
売上高	93.0	97.7	4.7	5%
営業利益	17.5	19.7	2.2	13%
営業利益率	18.8%	20.1%	1.3pt	—
経常利益	15.7	17.8	2.1	13%
経常利益率	16.9%	18.2%	1.3pt	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	5.1	5.8	0.7	14%
純利益率	5.5%	5.9%	0.4pt	—
為替レート（US\$）	144.58	146.14		
為替レート（NT\$）	4.52	4.67		
為替レート四半期平均（NT\$）	4.41	4.69		

2025年5月15日に公表した第2四半期の業績予想値と実績値との差になります。

主な要因は為替レートの影響です。対台湾ドルで日本円が想定よりも円安方向に推移したため、売上高、営業利益ともに増加しました。当社グループの売上の7割は台湾子会社によるものですので、台湾ドルの為替レートが大きく効いてきます。

業績サマリ（累計）

Tera Probe

車載向けロジック製品は在庫調整の影響で減少するも、
サーバー向け及びAI関連製品の受託量が増加し、売上高は前年同期比で増加

(単位: 億円)

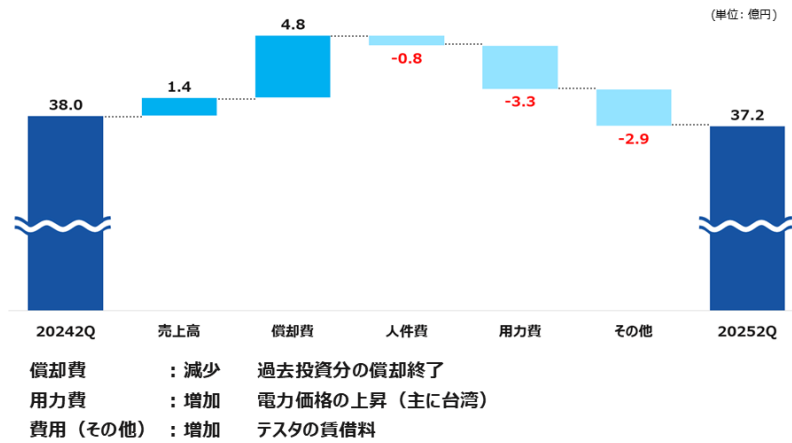
	FY2024	FY2025	YoY	
	1H	1H	増減額	%
売上高	188.8	190.2	1.4	1%
売上総利益	51.6	50.7	-0.9	-2%
売上総利益率	27.3%	26.7%	-0.6pt	-
営業利益	38.0	37.2	-0.8	-2%
営業利益率	20.1%	19.6%	-0.5pt	-
経常利益	39.0	34.5	-4.5	-11%
税金等調整前当期純利益	44.2	36.2	-8.0	-18%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18.2	12.9	-5.3	-29%
純利益率	9.6%	6.8%	-2.8pt	-
為替レート (US\$)				
為替レート (NT\$)				
	150.02	150.03		
	4.78	4.67		

累計の業績サマリです。車載向けロジック製品は在庫調整の影響が続き、前年同期比で減少しました。
一方、サーバー向けやAIチップはテスト需要が増加し、売上高は微増しました。
営業利益は減少しましたが、要因については次で説明します。

営業利益増減要因（累計）

Tera Probe

償却費は減少するも、各種費用が増加し営業利益は減少



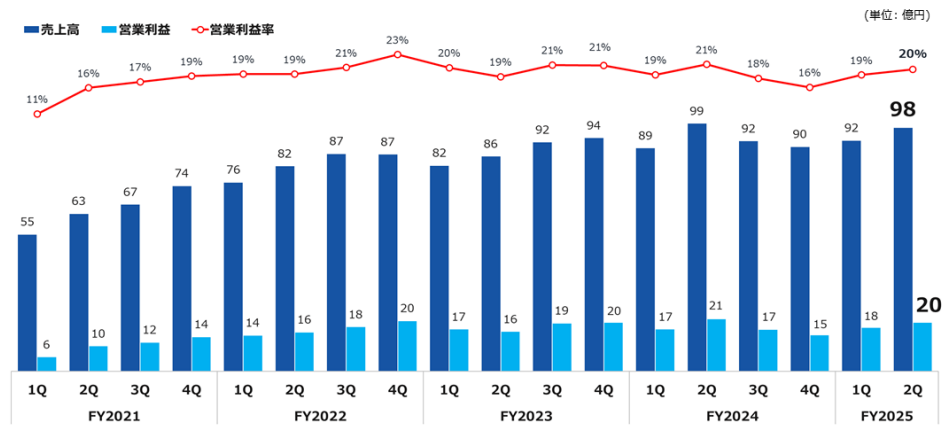
累計の営業利益の増減要因です。

償却費は減少しましたが、その他費用や、日台双方で用力費が増加し、営業利益は減少しています。その他費用の半分はテストと部材のレンタル費用です。最先端のテストは高額なため、顧客の試作品をテストするとき、使用した分だけテストをレンタルしています。これにより一部コスト圧縮に寄与しています。これらの結果、営業利益は37.2億円となっています。

■ 連結売上高、営業利益推移

Tera Probe

売上高の増加により、営業利益率が20%台に回復



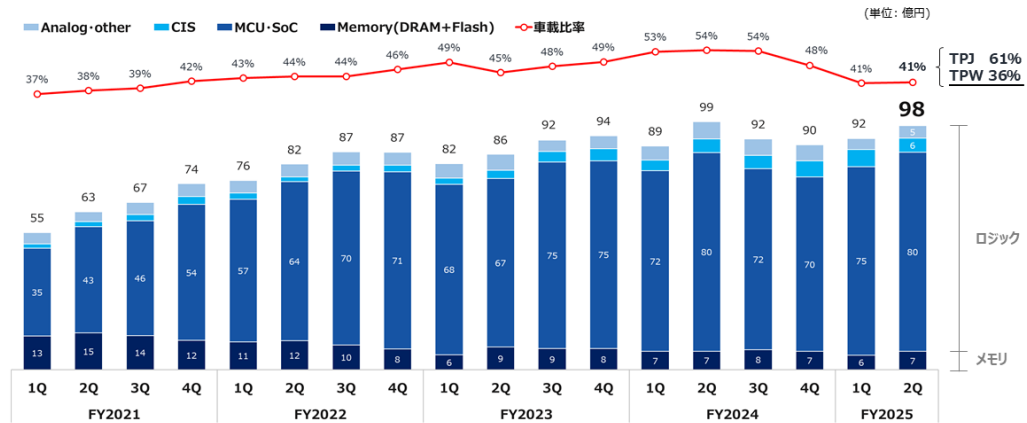
連結売上高と営業利益の推移です。

濃いブルーの棒グラフが売上高で、薄いブルーの棒グラフが営業利益です。営業利益は20億円となり、営業利益率は2024年第2四半期以来、4四半期ぶりに20%へと回復しました。

■ 連結売上高推移（製品別）

Tera Probe

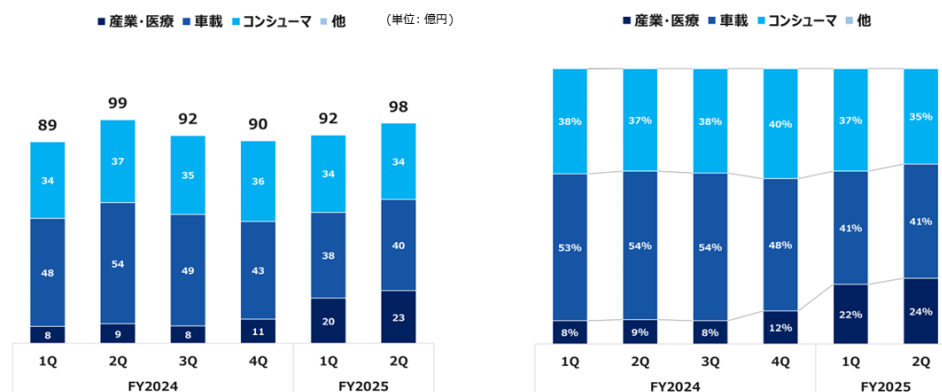
サーバー向け及びAI関連製品は堅調
車載向けロジック製品の在庫調整継続のため、車載比率は4割で横ばい



製品別の連結売上高の推移です。棒グラフの一番下から、メモリ、MCU・SoC、センサ、アナログと並んでいます。赤い折れ線グラフは車載半導体のテスト比率を示しています。車載品質のテストを提供できることは当社グループの強みであり、車載比率をKPIのひとつとしています。連結で約50パーセントを目安としていますが、直近は41パーセントまで低下しています。これは先ほどご説明したとおり、車載向けロジック製品の在庫調整が続いているためです。一方で、サーバー向けやAIチップの増加が寄与しており、その結果、車載比率は低下しているものの、売上高全体としてはほぼ変わっていないという構造です。特に台湾子会社TPWでは、サーバー・AI向けが好調で、約3割強が車載向け、6割強が車載以外のテストとなっています。

■ 連結売上高推移（アプリケーション別） / 四半期推移

Tera Probe



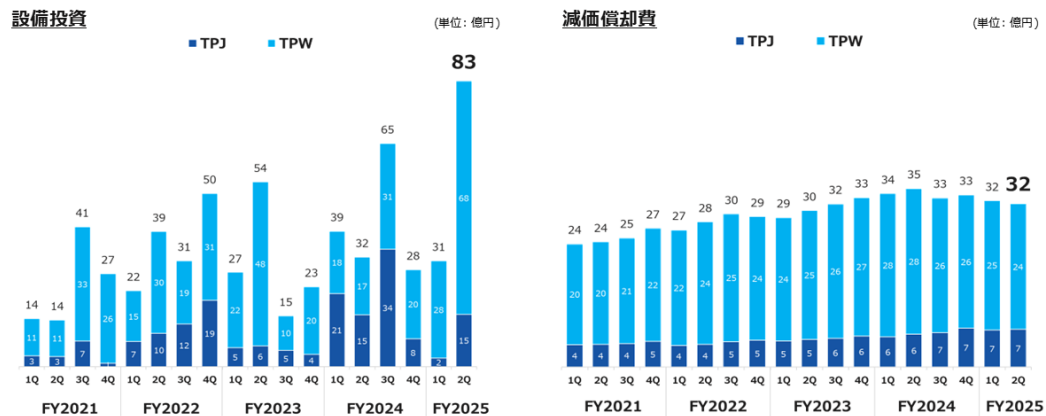
アプリケーション別売上高の四半期推移です。

右のグラフをご覧ください。先ほどサーバー向けが好調とお話したとおり、データセンター向けのサーバー需要が増加し、産業・医療が約2割強まで拡大しています。一方で、全体売上の中で最も大きな割合を占める車載の比率は約4割になっています。

設備投資、減価償却費

Tera Probe

台湾：サーバー、AI関連の先端製品向け、日本：新規海外顧客向け投資を実行
減価償却費は横ばい

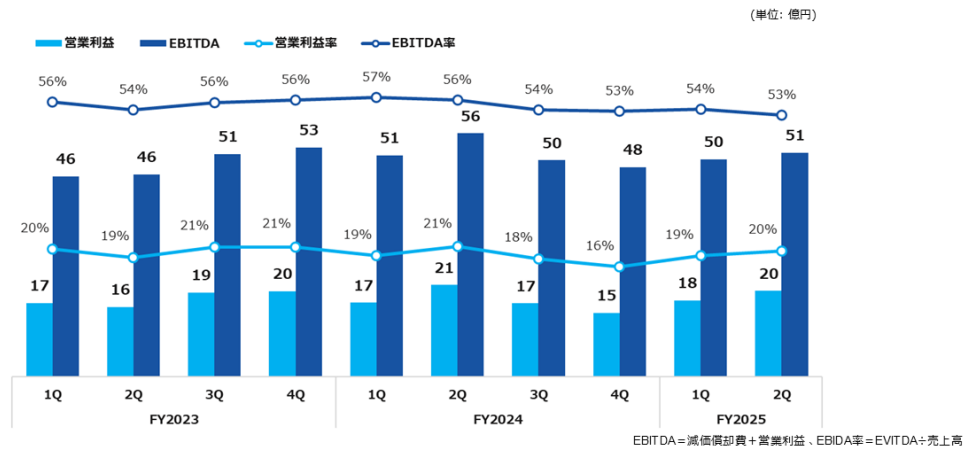


設備投資と減価償却費についてです。第2四半期は積極的に投資を行いました。メインは台湾子会社でのサーバー・AI向けの最新テストですが、日本側でも設備投資を行っています。これは、顧客がサプライチェーンを変更し、日本国内にサプライチェーンを構築するという方針を示しているためであり、今年からテストを入れ始めています。右側の減価償却費については、今のところコントロールできる範囲で推移しています。日本側は濃いブルーの棒グラフですが、こちらも安定的に管理しています。

EBITDA（減価償却前営業利益）

Tera Probe

EBITDAは営業利益の約2.5倍、安定したキャッシュ創出力



EBITDAの四半期推移です。薄いブルーの棒グラフが営業利益、濃いブルーの棒グラフがEBITDAです。当四半期の営業利益率は約20%、EBITDA率も約50%あり、当社は安定したキャッシュ創出力があると考えています。

設備投資を実施したことにより有形固定資産、有利子負債増加

(単位: 億円)

	FY2024				FY2025		QoQ		YoY		vs.FY2024-end	
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	増減額	%	増減額	%	増減額	%
資産合計	701	729	734	754	715	858	143	20%	129	18%	104	14%
現預金	107	108	109	117	96	147	51	52%	39	36%	30	25%
有形固定資産	469	482	484	499	484	573	89	18%	91	19%	74	15%
その他資産	125	139	140	138	136	138	2	2%	-1	-1%	0	0%
負債合計	198	211	229	214	195	301	106	54%	90	43%	87	41%
有利子負債	114	104	139	138	134	181	47	35%	77	74%	43	32%
その他負債	83	107	91	77	61	120	59	98%	13	12%	43	56%
純資産	504	518	504	539	520	556	36	7%	38	7%	17	3%
*有利子負債 = 借入金 + リース債務												
D/Elンシ	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5						
ネットD/Elンシ	0.0	-0.0	0.1	0.1	0.1	0.1						

	FY2024				FY2025		QoQ		YoY		vs.FY2024-end	
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	増減額	%	増減額	%	増減額	%
営業CF	48	43	25	59	45	54	9	21%	11	26%	-5	-8%
投資CF	-15	-26	-61	-44	-19	-42	-23	-	-16	-	2	-
FCF	33	17	-36	15	25	12	-13	-52%	-5	-29%	-3	-20%
財務CF	-40	-14	25	-6	-16	37	53	-	51	-	43	-

バランスシートとキャッシュフローの要約です。現在、アクセルを踏んで積極的に投資をしているため、有形固定資産は573億円、有利子負債は181億円と、前四半期から増加しています。しかしながら、営業キャッシュフローの範囲内で投資キャッシュフローを回しており、積極的に投資を進めつつ基盤を固めている段階にあります。

2025年12月期3Q、4Q 業績予想

Tera Probe

サーバー向け及びAI関連製品の需要拡大が下期も継続 特定顧客のEV向けロジック製品が引き続き堅調に推移

(単位: 億円)

	FY2024					FY2025			QoQ		FY2025		QoQ		FY2025		YoY	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	増減額	%	4Q	増減額	%	年間	増減額	%		
売上高	89.5	99.3	92.3	90.0	371.1	92.5	97.7	105.0	7.3	8%	110.0	5.0	5%	405.2	34.1	9%		
営業利益	17.0	21.0	16.8	14.6	69.5	17.5	19.7	21.0	1.3	7%	24.3	3.3	16%	82.5	13.0	19%		
営業利益率	19.0%	21.2%	18.2%	16.3%	18.7%	19.0%	20.1%	20.0%	-0.1pt	-	22.1%	2.1pt	-	20.4%	1.7pt	-		
経常利益	17.1	21.8	14.9	16.2	70.1	16.8	17.8	20.0	2.2	12%	23.5	3.5	18%	78.0	7.9	11%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	9.2	9.0	7.6	9.4	35.1	7.1	5.8	6.0	0.2	3%	7.6	1.6	27%	26.5	-8.6	-24%		
純利益率	10.3%	9.0%	8.2%	10.4%	9.5%	7.7%	5.9%	5.7%	-0.2pt	-	6.9%	1.2pt	-	6.5%	-3.0pt	-		
為替レート (US\$)	146.67	153.20	154.17	149.14	150.87	154.13	146.14	146.09			147.00			148.25				
為替レート (NT\$)	4.73	4.78	4.73	4.72	4.72	4.64	4.67	4.76			4.78			4.78				

※8-9月以降: US\$ 147.00円、NT\$ 4.90円を想定
※10-12月以降: US\$ 147.00円、NT\$ 4.85円を想定

2Q→3Q 売上高・営業利益 : 増加 サーバー向け及びAI関連製品の需要拡大が下期も継続
特定顧客のEV向けロジック製品が引き続き堅調に推移
3Q→4Q 売上高・営業利益 : 増加 上記製品の受託量増加が引き続き寄与

2025年下期の業績予想です。第3四半期も引き続き、サーバー向けおよびAI関連製品が好調に推移すると見えています。また、特定顧客のEV向けロジック製品の大型案件もスタートしており、2025年後半にかけて堅調に推移する見込みです。既存の車載向けはそれほど伸びませんが、特定顧客のEV向けがかなりの比率で増加する予定です。その結果、第3四半期の売上高は100億円を超え、過去最高になる見通しです。

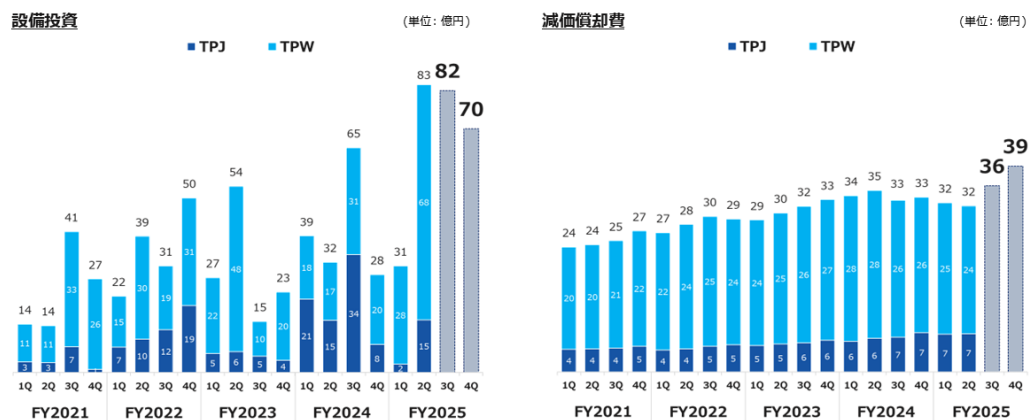
第4四半期もさらに売上高が増加する見込みです。営業利益は24億円で、こちらも過去最高を見込んでいます。

今年で当社は創業20周年を迎えました。20周年の目標として、売上高400億円を目指していましたが、今は、それを上回る水準を目指して取り組んでいる最中です。

2025年12月期3Q、4Q 設備投資、減価償却費予想

Tera Probe

先端製品向けの設備投資を継続



2025年下期の設備投資と減価償却費の見込みです。2026年以降の需要を考慮し、積極的な設備投資を継続する予定です。その分減価償却費が大幅に増えますが、うまくコントロールしたいと考えています。

2025年の取り組み	2025年上期の結果及び進捗
 AI半導体、ならびに関連製品のテスト強化	▶ サーバー向け・AI関連製品のテスト環境構築 売上高前年同期比150%伸長
 半導体産業支援によって増加するビジネス機会の取り込み	▶ 2026年以降のビジネスパートナー協議実施中
 日台両拠点で保有テストの有効活用と投資の最適化	▶ 台湾から九州へ新規ビジネス向けのテスト移設 による有効活用
 台湾における先端生産技術（自動化、AI導入）の ブラッシュアップと九州事業所への水平展開	▶ 日台両拠点での自動搬送システム量産導入

2025年の当社グループの取り組みについて、半年を終えた時点での現状を説明します。

まず、前回の決算説明会で、AI半導体を増やすという話をしましたが、これは順調に増えており、売上高は前年同期比で150%伸長しています。

次に、特に日本国内において、政府による半導体産業支援が前工程を中心に手厚く行われている中で、そのビジネス機会を利用する取り組みを始めています。現在、顧客と2026年以降のビジネスパートナー協議を実施中です。

3番目として、前回、日台両拠点で保有テストを有効活用するという話をしました。米中摩擦の影響で、アメリカの顧客を中心に、サプライチェーンを日本に移したいという要望が出ています。その関係で、今年、台湾子会社のテストを日本側に移してサポートすることが始まっています。

最後に、台湾では生産技術が進んでいます。現在、この先端生産技術を日台で育て上げている段階です。自動搬送ロボットは日台両拠点の量産ラインで稼働しており、1台で約3人分の作業を代替できるため、生産性の大幅なアップが可能です。

2025年4月に設立された、「日本OSAT連合会」に正会員として加盟

日本OSAT連合会（ https://j-osat.org ）	
設立	2025年4月
目的	日本の半導体後工程産業の強化と発展を図るために 国内OSAT（半導体アセンブリ&テスト受託会社）の業界団体を設立
会員構成	正会員：26団体（2025年6月10日時点） 賛助会員：29団体（2025年7月29日時点）
加盟メリット	・ 業界連携の強化 ・ 政策提言への参画 ・ 技術革新の推進 ・ 人材育成支援



日本OSAT連合会への加盟についてです。前工程については、政府から手厚い支援がありますが、後工程、つまり拡散が終わった後の組み立て工程とテスト工程（OSAT）にはこれまであまり焦点が当たっていませんでした。そこで、日本国内にしっかりとしたサプライチェーンを構築し、経済安全保障などをサポートしていくために、国内26団体が集まり、日本OSAT連合会を設立しました。今後は、この連合会を通じて、政府とも協議を進めていく予定です。政策の提言や人材育成支援もこの協議会で行います。

私からの説明は以上です。ご清聴いただきありがとうございました。